

赤れんが

平成18年 初夏号

理念
鳥取県立中央病院は、県の基幹病院として良質で思いやりのある医療を提供します。

方針

- 私たちは、急性期の高度・特殊医療をおこないます
- 私たちは、地域の人たちの安心・安全のため、救急医療に取り組めます
- 私たちは、地域の医療機関との連携強化に努めます
- 私たちは、地域の人々が納得される医療を行います
- 私たちは、組織人としての役割を遂行できるよう、研修・研鑽します

- 特集「電子カルテ」
- 院内トピックス
- 「研修の思い出」
- 診療案内他



「電子カルテ導入のもたらすもの」

鳥取県立中央病院 院長 武田 倬



ご存じのように当院のカルテが従来の紙カルテから、コンピュータに記録して画面で見る電子カルテに変わりました。2月1日から試行導入し、4月から本格的に稼働を始めました。

この電子カルテシステムによる診療は患者さんにとってどんないいことがあるでしょうか？

この原因の多くは医師をはじめ職員が電子カルテの操作に慣れていないためです。このシステムを導入するために日常の外来や入院の仕事をしながら、休みの日や勤務が終わってから夜の間に指導を受けながら電子カルテの操作を練習してきたといっても、多くの職員がまだ操作に熟練していません。徐々に本来の電子カルテの利点があわかっていただけるようになっていくと思っておりますのでご理解御協力をお願いいたします。

電子カルテを導入することによって効率化をはかり待ち時間を少なくし、わかりやすく書かれたカルテと様々な検査結果を一緒に見てもらいながら診察が行われます。もちろんフィルムやカルテも患者様が持つて移動していただくこともなくなりました。これらの情報は結果が出るとすぐに電子カルテに送られて診察室で見ることが可能となります。そして診察が終わると自動的に医事課にデータが送られて計算され、お支払いが終わればお帰りのだけというこ

とになります。

しかし、現実には「以前より時間がかかり待ち時間が長くなった。」「医師がコンピュータ画面ばかりを見ていて患者さんの方を向いてくれない」などの苦情を聞いています。

電子カルテの最もいい点は、「透明性の高い良い医療になること」と、「一人の患者様の情報を多くの医療者で共有することで「安全な医療が行えること」、そして「早く確実に指示が伝わりデータが処理されること」です。コンピュータは機械です。故障する可能性が全くないわけではないかもしれませんが、結果を判断したり情報を入力するのは人だということも考えておかないといけません。

電子カルテが、皆さんにとって「望ましい病院」への大切な道具となっていくように見守って下さい。

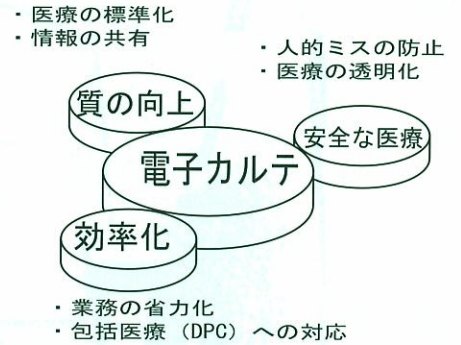
「当院の電子カルテ」

電子カルテ委員会
委員長 清水哲

当院では今年4月1日より、電子カルテシステムが本稼働いたしました。電子カルテとは紙カルテの代わりに、コンピュータに記録や指示をしながらか診療する道具といえます。CTや内視鏡の画像、血液検査や心電図の結果もコンピュータ画面で確認します。

これまでは紙カルテやフィルムなどを集めて診察してまいりましたので、搬送に時間がかかりました。電子カルテでは、どこからでも患者さまの情報を確認できますので、効率の良い診療が可能です。また、複数の場所で同時に一人の患者さまのカルテを開けるため、各科の医師や看護師が意見を出し合いながら、より良い診療を実現できると考えられます。

電子カルテの文字は新聞などと同様に活字ですので、患者さまに内容を理解されやすいと考えられます。患者さまから診療内容の説明を求められる場合でも、容易にそれにお答えすること



電子カルテ導入の目的

がでますので、患者さま中心の医療を実現する要となる技術とも言えます。また、一度記録されたカルテ内容の改竄は不可能な仕組みですので、患者さま個人の情報はすべて保証されます。

当院の電子カルテの特長は点滴やレントゲンなどにバーコードを活用している点です。点滴などの際には従来どおり職員が患者さまの名前を確認しますが、バーコードを併用することで、点滴内容や患者さまを間違える心配が非常に少なく、医療安全にも貢献いたします。

今後、周辺の病院や診療所にも電子カルテが導入されていくと予想されますが、お互いのカルテ情報を電氣的にやり取りすることで、診療所と病院との正確で円滑な情報交換が行われ、地域医療の連携が強化されていくと思われまます。以上、当院の電子カルテについて簡単にご紹介いたしました。

特集 電子カルテ

鳥取県立中央病院における電子カルテについて特集します。

「電子カルテが稼働して」

看護局 松本美智子

電子カルテが稼働し数ヶ月が経過しました。稼働当初は、トラブルもありましたが、徐々に解決され、今では電子カルテなくして業務は考えられないほどです。稼働までの作業は、通常業務をしながらのたいへんな作業でしたが、「皆の力を集結して取り組み、自分たちで作成上げた電子カルテ」という愛着の思いを抱いています。

さて、電子カルテ導入の目的は、①医療の質の向上、②安全な医療の提供、③業務改善と業務の効率化などがあげられます。注射実施時には、注射ラベルとリストバンドをバーコードリーダーで読み取ることで、患者誤認を防止するとともに、医師の指示変更にもリアルタイムで対応し、安全を確保しています。また、転記業務の軽減、管理業務への情報活用なども行い、業務改善の一端としてその効力を発しています。

電子カルテはあくまでツールであり、看護の質を高めるのはやはり人であるということを忘れず、電子カルテに使われることなく、患者サービスの向上のために、さらに充実した電子カルテになるようバージョンアップをしていきたいと思えます。

「画像部門」

医療技術局 中央放射線室

森里昭典

医用画像部門においても検査依頼(オーダー)から結果(画像・フィルム)に至るまで可能な限りの電子化を行いました。

今回導入したシステムはX線画像だけでなく電子内視鏡・超音波・関節鏡の画像も取り込みが可能となり、病院内で発生する医用画像の全てが一括して保存できます。一部の検査では、従来のX線フィルムを廃止し、診察室の画像用モニターで観察を行ってまいります。近いうちには、ほぼ全ての撮影(検査)でフィルム出力が無くなると予想されます。

このように情報及び画像を電子化する意義としては①医師の指示内容をより正確に伝える、②その指示内容を診療録に詳しく記載する、③撮影(検査)結果が迅速に判る、④以前の撮影(検査)結果との対比がすぐに行えるためより質の高い診断が可能となる、などの利点があります。



アレルギーチェック実施の記録



患者確認



指示内容の確認



◆バーコードによる安全強化

院内トピックス

加齢黄斑変性症に対する、 光線力学療法を開始！

鳥取県立中央病院では、加齢黄斑変性症に対する光線力学療法を開始しました。

この病気は、視野ががゆがんだり、一部が黒く欠けたりするもので、欧米などの先進国では、中途失明原因の第1位を占め、わが国でも最近増加しています。この病気に対し、近年、光線力学療法という新しい治療法が行われるようになりました。

当院では、この治療に必要なPDT用レーザー光凝固装置を導入し、4月より治療を始めました。



PDT用レーザー光凝固装置による治療

災害医療倉庫設置

鳥取県立中央病院は、県の基幹災害医療センターの指定を受けています。

この2月、災害時に、迅速に対応するための資材・機材を備えた倉庫を、病院の敷地内にあらたに設けました。発電機や非常食の他、化学災害に対応するための防護服なども整備して、より一層の努力を続けてまいります。



救急救命士による 薬剤投与実習受入について

平成18年4月より、救急救命士による強心剤投与が可能となりました。

これにより、一定の講習・実習を終えた救急救命士が、救急現場や救急車内において、医師の指導のもと、強心剤を投与することが可能となり、救命率の一層の向上が期待されます。

これを受けて、鳥取県立中央病院では、平成17年12月より、救急救命士による薬剤投与実習を受け入れています。

よりよい医療と、救命率の向上のため、みなさまのご理解をお願いいたします。

臨床研修医制度を振り返って

臨床研修医制度が始まって、初めての修了生を迎え、今回7名が巣立っていきました。代表して2名の方から当院での研修期間の思い出をお聞きしました。
※原稿は三月時点でのものです。



橋本由徳 医師

私は医師となって最初の2年間、当院にて上級医師の指導のもと、多くの患者様を診させて頂き、本当に多くのことを学ばせて頂きました。今でも入院中診療に当たらせていただいた患者様の思い出は心の中に焼きついていきます。

そんな私も臨床研修の2年間で終了し、研修医を巣立って、ここで培った経験をもとにまた新たな地での診療に励んでいきたいと考えています。

大なり小なり研修医はみな、始めはその責任に恐れ、悩み苦しんで、泣いて笑って、現場で掴み取った幾ばくかの自信や楽しみ喜び嬉しさを感じながら将来への小さな希望を見出すことでしょう。

研修医、と聞くと、つい頼りないと感じてしまうこととは思いますが、今後も研修医を地域全体で暖かく見守ってやってください。きっとその研修医もその気持ちに伝えてくれるはずですよ。



北野和美 医師

こんにちは。このたび無事に初期臨床研修を終了できそうな北野です。

非常に長かったような、あっという間だったような、そんな2年間でした。

少しずつ春の空気を感ずる今、改めて振り返ってみると、医師としての勉強はもちろんですけど、それ以上に人として色々なことを考えさせられた2年間でもありました。

これからも、医者である前に人として大切なことを見失わぬよう歩いて行こうと思えます。この2年間で御世話になった数多くの方々にこの場を借りて御礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。



外来診療案内

(平成18年6月1日～)

名称	月	火	水	木	金
内科	田中孝	森田	浦川	柳谷	小村
	杉本	清水辰	田中究	村尾	岡田
	榑崎	榑崎	田中孝	森田	清水辰
	村尾	田中孝	岡田	小村	杉本
	田中究		武田倬	山本寛	
		柳谷			遠藤功
循環器科	那須	遠藤	吉田	吉田	菅
	吉田	吉田	菅	遠藤	那須
		那須			遠藤
神経内科	中安	浅井	中安	浅井	中安
	鈴木香	中安		中安	鈴木香
精神科	松林	松林	松林	松林	松林
小児科	常井	星加	宇都宮	星加	常井
	宇都宮	戸川	横山	田村	大谷
	星加(午後)		星加	戸川	
外科・小児外科	岸	澤田	清水	河村	中村
整形外科	服部	山本清	鱸(すずき)	山本哲	村岡
	山本清	村岡	山本清	服部	山本哲
	山本哲	鱸	村岡	鱸	服部
形成外科	坂井		坂井		坂井
脳神経外科	稲垣	宇野	稲垣		稲垣
胸部外科	前田	谷口		森本	
		中嶋		宮坂	
泌尿器科	根本	太田	木内	太田	根本
	渡邊	木内	太田	木内	
皮膚科	河上	河上	河上	河上	河上
産婦人科	皆川	大野原	池野	出浦	皆川
	大野原	池野	皆川	皆川	大野原
	池野	出浦	大野原	池野	出浦
眼科	伊藤	武田	伊藤	武田	武田
耳鼻咽喉科	竹内	竹内	鈴木	竹内	松尾
	鈴木(午後)				鈴木
放射線科	藤原	中村	中村	小川	藤原
麻酔科	内田	坂口	内田	小笹	内田
口腔外科	倉立	倉立	倉立	倉立	倉立
	山本	山本	山本	山本	山本
人間ドック	佐々木	村尾	根本	佐々木	佐々木
救急科	岡田稔	岡田稔	岡田稔	岡田稔	岡田稔

鳥取県立中央病院
外来診療受付時間 8:30~11:00

※外来は基本的に予約制です。
予約に関する変更・お問い合わせは午後2時から受け付けます。
※緊急手術等で担当医が変更になることもあります。

面会時間 13:00~20:00

専門外来等

名称	曜日	担当医
ペースメーカー	水・午後	循環器(菅)
アトピー	水・午後	皮膚科(河上)
乳腺	火	胸部外科
リウマチ	金・午前	整形外科(山本哲)
アレルギー・花粉症	月・午後	耳鼻科(鈴木)
更年期	金・午後	産婦人科
発達	第1・2・3・5 金・午後	小児科(戸川)
小児肝炎	月・午後	小児科(星加)
乳児健診	火・午後	小児科
妊婦教室Ⅰ	第2水曜 午後	産婦人科
妊婦教室Ⅱ	第3水曜 午後	産婦人科 小児科
安産教室	第4水曜 午後	産婦人科
内分泌・不妊症	月・水・金 午後	産婦人科(大野原)
産科・周産期	月・水 午後	産婦人科(池野)
婦人科腫瘍	水・午後	産婦人科(皆川)
網膜・硝子体外来	月	眼科(伊藤)
思春期外来	月・午後	精神科(松林)
物忘れ	火・午後	精神科(松林)
睡眠障害外来	水・午後	精神科(松林)

※H18年4月より以下の専門外来は休止しています。

- × 尿失禁 水曜日 泌尿器科
- × スポーツ 水曜日 整形外科

医師の異動一覧 (4月1日現在)

転出		転入
山口、石飛、岡本	内科	森田、柳谷、村尾
土居	神経内科	浅井
山崎	整形外科	村岡
	胸部外科	前田
豊嶋	小児科	戸川、大谷
渡邊	泌尿器科	木内
堀江	産婦人科	出浦
三宅	眼科	武田、春木智
	外科	春木朋
橋本、佐々木、植垣 北野、松波、中崎 稲田	研修医	藤田、田中、加藤 今本、玉田、木山 築谷、矢倉、荒井 桑本、澤住

お知らせ

当院では、患者様へのサービスの向上を図り、よりよい医療を提供するために4月1日(土)より電子カルテシステムを本稼働致しました。

当初は機器操作の不慣れによる待ち時間の増加、一部、運用の変更等、患者様に御不便をおかけする場合も考えられます。

何卒御理解の程よろしくお願い申し上げます。

発行 鳥取県立中央病院 (〒680-0901 鳥取市江津730)
院長 武田 倬
電話 0857-26-2271 ファックス 0857-29-3227
ホームページ: <http://www.pref.tottori.jp/chuoubyouin/>
E-mail : chuoubyouin@pref.tottori.jp